

平成20年度 学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立須恵高等学校長 印

学校運営計画 (4月)				評価 (3月)				
学校運営方針		教育目標：豊かな心と社会性を培い、逞しく生きる力を育てるとともに、国家社会に貢献し得る知識・技術を身に付け、国際化に対応できる意欲ある人間の育成を目指す。 教育目標に基づいて、「Step Up Education」(SUE)をスローガンとして、高い志を持ち自らの目標に向けて意欲的に挑戦していく生徒の育成と、これを支え導く教員の資質と意欲の向上を図る。 ⇒ 「須恵高教育力向上プラン」の推進。			B			
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標					
本校教育の基本である「五省」を実践できる生徒は、多数育ってきている。また、学校行事等の特別活動は、指導と評価の一体化を図ったことにより、着実に成果を上げつつある。しかし、学力向上、進学実績、部活動の活性化は、まだ十分とは言えない。 今後、学校の特色化を図り、地域に信頼され、期待される魅力ある学校づくりを行うためには、生徒、教員の意識改革と地域社会への積極的なアプローチが重要かつ喫緊の課題である。		1 本校の基盤をなす「五省」・「五心」の伝統を継承しつつ、学校の特色化を推進し、地域に信頼され期待される品格のある学校文化を創造する。 2 進学実績において質・量を向上させ、競争力と安定感のある普通科高校を目指す。 3 高い志と夢を実現させるため、勉強に部活動に鍛えて伸ばす活気あふれる学校を目指す。 4 基本的な生活習慣を確立させ、心豊かな人間を育成するため、積極的な生徒指導の充実を図る。 5 本校に対する理解を深め、地域社会の期待に応えるため、関係機関との連携を強化し、広報活動の充実に努める。	(1) 特別プロジェクトチームを立ち上げ、外部評価を活用して検討するとともに、各分掌・学年の機能を活かして質の高い教育活動を展開する。 (2) 進路ガイダンスの充実、適切な進路情報の提供を行い、明確な数値目標を設定して緻密な進路指導を徹底する。 (3) 主体的に判断し意欲的に行動できる生徒を育成するため、生徒会活動や部活動等を積極的に支援するとともに、自主・自律の意識を醸成助長する。 (4) 教育センターと連携して教職員の資質向上を図り、全教職員の協力による組織づくりを行い、学校全体で支援する態勢を整える。 (5) HR活動や朝読書の充実、セミナーハウスの活用など、指導計画や指導方法の工夫・改善を行い、生徒の意欲を高める積極的な生徒指導を行う。 (6) 学校説明会・出前授業・地域行事への参加等、地域との連携強化を図るとともに、広報紙やHPによる情報提供など、積極的な広報活動に努める。					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題			
学習指導	出席状況の把握と改善 年間出席率 98 %以上 退学・転学者数計 8 名以内	入室許可証を用いた遅刻等の生徒の状況把握と指導 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立 遅刻欠席者指導、家庭訪問、個人面談など学年と連携した取り組み	A A B	A	出席状況に関しては、担任、学年を中心とした指導により、昨年度より大幅に改善している。これを次年度も継続させたい。 授業内容・学習指導に関しては、取り組みは前向きであるものの、教員間の意識の差や資料の活用(工夫・改善)が不十分な面もあった。次年度に向けて実施方法や取り組み方、工夫・改善の指導等が必要である。			
	授業規律の確立と授業内容の充実 考査素点平均の遵守 85 %以上	チャイムと同時の始業、授業前後の挨拶、積極的な授業態度など意欲的に学習に取り組む姿勢の育成 互いの授業を参観することによる授業方法の工夫・改善 シラバスの改善と活用方法の検討 授業改善アンケートを活用した授業内容等の改善 考査内容の充実と平均点の適正化	B C C B B			B		
		学習習慣の定着 自主学習時間 2 時間以上 追考査対象各学年 10 名以内	課題の実施方法等、各教科による学習時間定着に向けた取り組みの検討 予習、課題の指導の徹底等、家庭学習と授業との連動 学習時間調査による学習習慣の把握と改善に向けた指導	B B B		B		
			ICTを活用した授業ができる教職員の割合を 100 %にする。	情報機器の活用法に関する職員研修を実施する。 校外研修会を紹介し、参加を呼びかける。		B C	B	
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立・品格ある生徒の育成	朝の門立ち指導、校内巡回、下校指導の実施 重点目標を設定し、職員間の共通理解を図った指導	A A		A	6月に本校開校以来初めて、交通死亡事故が発生し、交通安全指導については、昨年より更に充実させた取り組みを行っていただけに、非常に残念である。生徒一人ひとりにどう伝えていかかという点を更に工夫改善を行っていききたい。 学校全体として、職員・生徒ともに活気が出てきた。次年度は、動き始めた生徒会や部活動生による地域行事への参加やボランティア活動を充実発展させ、地域との結びつきを強めていきたい。	
		部活動の活性化 入部率 60 %以上 (女子 50 %以上、文化部 20 %以上)	新入生への部活動説明会の工夫・改善 学期に 2 回以上の部活動顧問会議・部活動生集会の実施 部活動の新設、改廃の推進	B B B				B
			地域との結びつきの強化	部活動生による地域行事への積極的な参加やボランティア活動の実施 生徒会活動を活性化させ、地域への広報活動を積極的に行う。				B B
安全指導の徹底		交通安全教室や年 2 回の自転車安全点検、マナー指導の実施 迅速な不審者情報等の提供 危機管理マニュアルの改訂と周知徹底	C B B	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
進路指導	第1希望の進学先の合格に向けて積極的に努力できる生徒や国公立大学や難関私大にチャレンジする生徒の育成	課外授業の出欠状況の把握と出席率の向上（年間出席率95%を目指す。）	A	A	大学合格者総数から考えると、第1希望の進学先の合格へ向けた取り組みが不十分であった。面接指導室の設置、小論文用紙の準備、過去問題集の利用の促進、コンピュータを活用しての進路先検討、進路資料室のコンピュータ利用促進など、新しい試みが十分反映できなかった。 次年度は進路新聞を発行し、生徒はもとより先生方にも多様化する入試制度や入試傾向などを提供していきたい。また、本年度の入試結果から本校の推薦入試の在り方について、検討し改革したい。
		土曜セミナーを中心とした学習指導の充実	A		
		卒業時の英語検定資格の全員の取得や組織的に取り組む小論文の指導の徹底	B		
	進路情報提供の充実 生徒・教員・保護者への進路情報提供	各クラスへの進路情報の提供	B	B	
		コンピュータを活用しての進路指導の実施やその活用法の職員研修会の実施	B		
		保護者への進路講演会・進路説明会の実施	A		
進路意識の高揚 校外模試の成績向上と分析	進路カルテ等の作成と活用	B	B		
	模試の計画的実施、模試結果の活用方法の工夫	B			
	生徒へ提供する大学や専門学校に関する入試情報や入試問題の徹底研究	B			
第一学年	学習指導 基礎基本の理解 家庭学習時間 週20時間以上	基礎基本を理解させられる授業や個々の理解度に応じた授業内容の工夫	A	A	学習指導においては、特に家庭学習の習慣が少しずつ定着し始めた。更に家庭学習の定着を促進するため、課題内容や課題の提出後の指導の工夫が今後の課題である。 出席状況に関しては、皆勤者143名(51.1%)と、全体として非常によく頑張っている。 進路指導については、予算の都合上、一日大学体験入学が実施できなかったが、これにかわる進路学習を実施することができた。
		予習を中心とした家庭学習の習慣を定着させる指導の徹底	A		
		各教科における課題提出指導方法の確立	B		
	生徒指導 年間皆勤者数140名以上 規範意識の高揚	5分前行動・挨拶・言葉遣いなど、基本的な生活習慣を確立する指導	B	A	
		遅刻、欠席、怠学の防止のための指導と家庭連絡の徹底	A		
		保護者面談、家庭訪問、中学校との連携等の早期対応	A		
進路指導 進路目標の明確化 職業意識の高揚	各クラス進路面談の実施、学年で統一された面談資料の充実	B	B		
	特に英語に重点を置いた夏季学習合宿や土曜セミナーの充実	A			
	「職業探索講座」「一日大学体験入学」のための事前・事後指導の工夫	B			
第二学年	学習指導 各教科課題提出率100% 家庭学習平均時間4時間 学年成績の欠点率5%以内	各教科における課題提出指導方法の確立	B	B	学習指導の徹底の中で、課題の提出率100%をめざして各教科取り組みを行っているが、他人の課題を写す等、規範意識や学習意欲が薄い生徒もおり、その改善指導が必要である。 年度当初の欠点率は低く、学年全体として遅刻欠席指導や担任による家庭連絡を始めとする指導が功を奏したと思われる。しかし、安易な遅刻・欠席が2学期以降増加しつつあり、今後指導を徹底させていく。進路指導関連行事の計画・実施は滞りなく行なわれているが、今後生徒の進路に対する意識を高めるため、その内容充実を図る。
		各クラスにおける課題提出状況の把握と課題提出徹底方法の確立	B		
		基礎基本の定着を目的とした終礼テスト等（国・英・数）の実施	C		
	生徒指導 年間皆勤率50%以上 出席率98%以上遅刻率1%以下 規範意識の高揚	家庭学習状況改善のための放課後自学の実施	A	B	
		出席優秀クラスの表彰、欠席者の家庭連絡の徹底、欠席・遅刻者指導の実施	A		
		各クラス個人面談の実施、学年主任及びクラスの枠を超えた面談体制の確立	B		
進路指導 進路目標の明確化 学習意欲の喚起	保護者面談、家庭訪問、中学校との連携等の早期対応	A	A		
	5分前行動、挨拶、言葉遣いや身だしなみ等についての指導の徹底	B			
	小論文対策、保護者を含めた進路説明会の実施	B			
第三学年	学習指導 家庭学習時間（平日4時間・休日7時間）の達成	大学訪問、情報センター訪問等の推進	A	B	最上級生という自覚から積極的に学校生活を送る生徒が増え、家庭との連絡を十分とる中で出席状況は改善された。学習に対する意識も高くなり、最後までよく努力できていた。次年度の主な課題としては、次の3点が上げられる。 ①進路目標の早期決定（進路情報提供、総学の活用） ②学習への積極的姿勢の構築（1年次からの家庭学習の体制づくり） ③入試レベルを意識した3年間の教科指導体制充実（教科内研修会の実施）
		自主的に取り組めるまで、週末課題等の課題を適切に施す。	B		
		進学に必要な学習時間や入試問題の内容・レベルを周知徹底する。	A		
	生徒指導 1年間皆勤者130名以上 中途退学者数1%（3名）以内	課題提出の期限化を図り、点検を徹底する。	B	A	
		集会等を通じ授業に集中する姿勢を育成し、安易に遅刻・欠席をさせない。	A		
		学校行事等に積極的に関わらせ、帰属意識を高め、出席率を向上させる。	A		
進路指導 大学合格目標数（国公立大15名、西南学院大学を含む難関私大20名、福岡大学100名）等	授業課題の提出指導、生活指導、面談等をきめ細かく行う。	B	B		
	センター試験向けの早期対策や小論文対策・指導を推進する。	A			
	学習意欲向上のための進路ガイダンスや情報伝達を徹底する。	B			
保健・美化 (1)	生徒の自主的・自発的な清掃活動意識の啓発	自主的学習の支援と充実	B	B	
		個人面談の時間確保と生徒情報の共有の推進	B		
		生徒指導統一HRを通じたゴミの分別及び廃棄要領の周知徹底	A		
		美化に関するポスター等の募集や掲示など、美化意識の啓発活動	B		
		生徒指導統一HRを通じた古紙回収方法についての確認	A		
美化委員会を通じた古紙回収サイクル状況についての継続的な報告	C				
古紙回収やリサイクルに関するポスター等の募集や掲示など、環境保護の啓発	C				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
保健・美化 (2)	生徒の心身の健康・安全に関わる情報の各学年・担任への積極的な提供と組織的な連携の強化	健康診断結果について事後指導の実施	A	A	生徒の身体の健康・安全に関する活動は、保健委員会を中心によくできていた。保健だよりの内容も予定通りに発行できた。この保健だよりの情報を全校生徒に有意義に活用させるための工夫が必要である。 カウンセリングについては、生徒・職員・保護者を含めて、多角的なサポートができたと思う。昨年に比べ、心が不安定になっている生徒の数も少ない。相談を受けた生徒の大半が、自分の力で解決に向かっている。
		各種健康診断の結果を受けて、教育活動上必要な情報の職員への提供	A		
		クラス・学年別の保健室利用者状況を毎月、年間計12回の呈示	A		
		保健室入室記録簿の職員室持ち上がり継続と職員への閲覧呼びかけ	A		
		心身の健康安全に関する内容を記載した保健だよりの年間計10回の発行	A		
	職員のカウンセリング技術の向上と、スクールカウンセリングや個人面談等、教育相談で得た情報を共有し、生徒理解を深める機会の確保	校外研修活動への積極的な参加後、研修内容の全校生徒への還元	A	A	
		個人面談時間を確保した上で、学期に1回、年間3回の個人面談月間実施	A		
		年間10回のスクールカウンセリング実施	A		
		悩み相談箱の管理及び相談があった場合の対応	B		
		個人面談などで得られた情報を職員間で共有するための拡大学年会の実施	A		
学校・父母教師会・同窓会・講演会の連携	PTA総会と進路講演会等の同時開催を行い、出席率70%を目指す。	B	A		
	PTA各委員会行事の企画を支援する。	A			
	PTAの文化祭参加の支援する。	A			
	地域との連携	A			
中学生及び、中学教員、保護者、地域への情報提供	小学生との交流会を実施し、小学生の参加者360名以上を目指す。	A	A		
	学校開放日の参加者毎回20名以上を目指す。	A			
	中学生体験入学に450名以上参加できるように内容の充実を図る。	B			
	中学生、保護者、地域の方々へ本校訪問を積極的に呼びかける。	B			
	進路説明会、出前授業の要望を全て受け入れる。	A			
	広報委員との情報交換を積極的に行い、円滑な活動を支援する。	A			
PTA広報委員会との連携	広報誌コンクールの入賞を目指す。	A	A		
	広報誌コンクールの入賞を目指す。	A			
	HPの更新を行事ごとに行い、須恵高ニュースを適時発行する。	B			
	学校案内の内容を充実させる。	A			
広報資料の充実	学校紹介ポスターを作成し、配付する。	B	B		
	2学期に授業参観週間、研究授業週間を実施し、授業改善を推進する。	B			
	保護者・中学校・塾に授業を公開し、多角的に評価を行う。	C			
	各分掌から一つテーマを設定し、一方職員からも広くテーマを求める。	A			
教師の教科指導力の向上のため、授業改善を図る。	年3回の校内研修を行う。	A	A		
	教育センター等の研修への参加を積極的に促す。	B			
	2年生は1泊2日の学級合宿を実施する。	A			
	1年生は2泊3日の学級合宿を実施する。	A			
	教職員へのガイダンスや指導生徒のオリエンテーションを充実させる。	A			
	教職員の校外外の研修を実施し、指導力の向上に努めて、学校力を向上させる。	A			
PTA広報委員会との連携	図書館内の書架の配置等を変更し、開放的な雰囲気を作り出す。	A	A		
	各クラスにおいて図書委員による呼びかけを積極的に行う。	A			
	朝読書のための本の貸出を推進する。	A			
	朝読書の計画通りに実施することができた。貸出冊数は昨年度を上回っており、朝読書用の図書としても活用されている。ソファセットの導入により、来館者も増加した。館報・掲示板ともに計画通りの発行・更新を行うことができた。委員会活動の一層の活性化が来年度の課題である。	A			
広報活動の活性化 効果的な選書の実施	館報「バピルス」の年5回発行。掲示板「クローバー」の年4回更新を実施。	A	A		
	生徒による問屋訪問を年2回実施。	A			
	興味関心の高い本や看護コースや小論文対策用図書の整備を行う。	B			
委員会活動の活性化を図る。	定期的な委員会の開催。朝読書指導の強化。	B	A		
	文化祭への積極的参加。図書部独自の催しの企画・運営。	A			
人権教育 (年間3回の人権教育HR) (職員研修を年間4回以上行う。)	人権教育HRの内容の検討を深め、工夫・改善に向けての情報整理を行う。	B	B		
	全ての教育活動を通して、人権教育に対する生徒の意識の高揚を図る。	B			
	班会議、学年会議等を含めた職員研修を充実させる。	A			